

第1号議案

平成18年度事業報告

概 要

神奈川県支部は、脊髄損傷という重度の障害に打ち克つために医療体制の充実と福祉の向上、自立更生、あわせて会員相互の親睦を図ることを目的に活動しています。

しかし、このところ社会保障費の予算が大幅に削減され、医療や福祉とは切っても切り離すことが出来ない、脊髄損傷者の社会生活にとって、これまでにない厳しい時代が押し寄せてくるのではないかと危惧されています。

全脊連全体で医療や福祉の後退にしっかりと歯止めをかけていくことが今求められている中で、会員相互の親睦を図ることや、地域生活のために必要な情報提供と脊髄損傷者によるピアサポート活動は、神奈川県支部の最も大切な役割といえます。

平成18年度の支部活動は、9回にも及ぶ案内やピラを各会員の皆様のお届けしましたことでもお判りのように、これまでの支部活動始まって以来の行事の多い年度となりました。

支部主催のスポーツ吹き矢大会や支部忘年会、また、女性部が主催する御料理教室「車いすでもかんたんクッキング」などをはじめ、川崎、横浜、県央、湘南の各協会の主催による様々な催しものが行われ、会員相互の親睦を図ることが出来ました。

また、脊髄損傷者のピアサポート活動を促進させる目的で、(社)全脊連本部が平成16年度から18年度までの3年間に行った、脊髄損傷者のピアマネジャー養成研修事業で、神奈川県支部もこの3年間に合計7名が研修を受講したなど、脊髄損傷者のピアマネジャーとして正式にピアサポート活動を積極的に実施できる体制が整えられたことも神奈川県支部活動の新たな第一歩となりました。

支部ではこれまでも、会員の皆様に様々な形でピアサポート活動を行ってきましたが、これからも更に本格的なピアサポート活動を実施していくことがますます重要となります。

脊髄損傷者や重度障害者の日常生活に必要な情報提供や精神的な支援と各会員が真に求めている要望を聞けるようなピアサポート活動こそが、これからの神奈川県支部に求められる最も重要な役割となります。

支部の活動について、是非とも各会員の皆様のご意見をお聞かせ下さい。

1、セミナー「誰でもわかる自立支援法」の開催

《 6月11日(日) 会場 フォーラム 246 会議室 参加者25名》

平成18年度は、それまでの支援費制度に代わり、定率負担が伴う自立支援法へと福祉施策が大きく転換された年となりました。

負担がなかった支援費制度の施行で、本格的な自立生活が徐々に身についてきた矢先の制度の改変に対して、私たちはどのような対応が必要なのか。自立支援法で本当に自立が可能なのか。また、この先も制度が変わることがないのか。など、不安が広がっているなか支部では、この問題に詳しい関係各機関の方々を講師としてお招きして、自立支援法について様々な方面から解説していただきました。

また、さらに自立支援法に対する理解を深めるために、実際に地域で生活している障害当事者が、自立支援法のサービスを利用してどのような問題が生じているか、などについてケーススタディを行いました。

それぞれのケースについて「将来もっと負担が増えるのではないかなど、さまざまな問題点が指摘されました。

このセミナーでは、主に介護サービスが必要になっている各会員の生活に直接関係が及ぶ問題について詳しく学習することができました。

〔セミナー講師〕

- ・神奈川県保健福祉部障害福祉部 自立支援法担当…………… 武内 真
- ・(社)全国脊髄損傷者連合会本部 副理事長…………… 大濱 眞
- ・神奈川リハビリテーション病院医療福祉総合相談室室長… 田中 晃

これに対して、実際に地域で自立支援法や介護保険制度のサービスを利用して生活している障害当事者のケーススタディには、以下の方々がその生活実態の一端について発表しました。

〔ケーススタディ〕

- 1、神奈川県支部……………町田安男の場合
- 2、神奈川県支部……………鈴木秀夫・滋美夫妻の場合
- 3、神奈川県支部……………妻屋明の場合

2、平成18年度支部総会の開催

第28回支部総会は、6月11日に昨年と同じ伊勢原市のフォーラム 246 の会議室で19名が参加して行われました。

総会では、予め各会員に配布された、総会開催案内と第28回支部総会議案書に沿って、平成17年度の活動報告と総額294万5900円余りの決

算報告に続き、平成18年度の事業計画や予算案などが審議されました。

その結果、18年度事業と総額292万2200円余りの予算は、原案通り可決しました。

その他、総会では支部役員の日頃の活動に対して、傷害保険に加入しておく必要があるのではないかなどの意見がありました。

また、総会の開始に先立ち行われた資格審査では、平成18年4月1日現在、144名の支部会員数に対し、委任状提出者56名、総会出席者19名の合計75名となり、支部会則第10条2項による定足数73名を超えていることで、この総会は成立していることが報告されました。

3、定例役員会の開催

支部の運営や行事の開催など、支部活動のすべてについて協議を行う場として、平成18年度の定例の役員会は、第177回から第181回までの計5回開催しました。

いずれの会議も活動報告、各協会報告、会報の発行計画、など円滑な支部運営を図りました。

第177回	4月23日	相模原市「けやき会館」
第178回	6月11日	伊勢原市「フォーラム 246」
第179回	8月12日	相模原市「けやき会館」
第180回	10月22日	厚木市総合福祉センター
第181回	12月17日	伊勢原市「フォーラム 246」

4、スポーツ吹き矢競技大会の開催

「スポーツ吹き矢」は、一定のルールが設けられてはいますが、四肢麻痺者にも出来る上、気軽に楽しめるスポーツとして会員の皆様に度々ご案内するなど、神奈川県支部ではその普及を図っております。

昨年度は、いずれも豪華賞品を用意して計3回開催しました。

第2回	4月 9日	厚木市総合福祉センター	27名参加
第3回	12月17日	フォーラム 246	23名参加
第4回	3月25日	厚木市総合福祉センター	19名参加

5、支部会報「やわらぎ」の発行

平成18年度の会報「やわらぎ」の発行は、大井知子文化部長の入院により計画通りの発行ができませんでした。

しかし、それでも第74号と第75号支部総会議案書の2回発行しました。
第74号では、主に神奈川県支部主催の関東ブロック大会の会議の内容
やグラウンドゴルフ大会、TOTOのバスケットリフトなどの福祉機器の紹介。
また、東名海老名パーキングエリアのトイレの取材記事などを掲載しまし
た。

やわらぎ第74号……………平成18年5月1日発行

やわらぎ第75号……………平成18年5月30日発行

6、お料理教室の開催

3月21日 厚木市総合福祉センターにおいて 13名参加。

支部で始めて企画しました、女性部の活動としての料理教室は「車いすでも出来るかんたんクッキング」と題して会員の皆様にご案内しました。

このお料理教室では、実際にけんちん汁など簡単なお料理作りに全員が参加し、あわせて栄養や生活習慣病の予防などについて学び、健康な食生活を身につけると言う主旨で開催されました。

使われた食材は、大根、人参、ゴボウ、豆腐、ネギ、コンニャク、ほうれん草、しめじ、など。

この日は、神奈川リハビリテーション病院、脳血管センターの志村好枝栄養課長を講師としてお招きし、「上手に食べて元気アップ」と題して講演をしていただきました。

7、支部忘年会の開催

平成18年度の支部忘年会は、例年のように、12月17日(日)に伊勢原市のフォーラム 246 において、東京支部との共催で開催致しました。

いつものように、カラオケやビンゴ大会など賑やかに行われ、過ぎ行く年の瀬のひと時を参加者全員で楽しみました。

この忘年会には、東京支部や千葉県支部からなど30名が参加しました。

8、ピアマネジャー養成研修の受講

脊髄損傷者のためのピアサポート活動を全国的に普及させることを目的に、全脊連本部が平成16年度から3年間に亘って取り組んだ、脊髄損傷者のピアマネジャー養成研修会は、最終年の3年目を迎え、鹿児島県と岡山県で研修会が開催されました。

支部からは、新田輝一さんが鹿児島県で行われた研修会を受講し、ピア

マネジャーに必要な知識や初歩的なピアサポート技術を習得致しました。

このことにより、神奈川県支部に合計7名の脊髄損傷者のピアマネジャーが誕生したことになりました。

今後、神奈川県支部のピアサポート活動の原動力になることが期待され、支部会員をはじめ広く脊髄損傷者の相談事にも積極的に応じる体制が整い、神奈川県支部の相談窓口の設置が求められます。

〔神奈川県支部ピアマネジャー〕

岡野 善記	215-0015	川崎市麻生区虹ヶ丘 3-3-9
町田 安男	243-0201	厚木市上荻野 923-7
路川十九夫	243-0014	厚木市旭町 5-8-4-102
赤城喜久代	229-0007	相模原市矢部新町 1-9-101
妻屋 明	246-0006	横浜市瀬谷区上瀬谷町 26-28
志村 裕子	213-0013	川崎市高津区末長 1358
新田 輝一	232-0066	横浜市南区六ツ川 2-14-12

9、共同募金活動に参加

毎年実施される赤い羽根の共同募金活動は、10月1日に横浜駅西口の広場で行われ、神奈川県支部から鈴木秀夫、滋美の両氏と深谷、赤城の4名が参加して、広場を行き交う人に募金を呼びかけました。

また、10月5日にも相模原市役所前で募金活動が行われ、16名が参加しましたが支部から赤城、路川の2名が参加しました。

そのほか、10月4日には厚木駅前で路川氏ら5名が参加して募金活動が行われました。

10、JAFとニッシン自動車の

無料点検サービスの実施

神奈川県支部では、障害者の自立を側面から支援するために、自動車の無料点検サービスを実施しています。

昨年度は、10月28日(土)に神奈川リハビリテーションセンター本館地下駐車場での無料点検サービスを実施しました。

この点検サービスに支部から22名が参加したほか、厚木市から20名、その他35名が手動装置やエンジン、足回りなどの点検サービスを受けました。また、今回から、会場内での事故等に備えるため、損害保険に加入して安心して参加できるようにしました。

11、厚生労働大臣表彰

12月6日、第56回厚生労働大臣賞の表彰式が行なわれ、全脊連本部の推薦を受け、支部役員であり本部副理事長でもある新田輝一氏が自立更生援護功労者として表彰されました。

12、各協会活動

(1)川崎協会

①セミナー「赤城の飛んでる旅行術」の開催

12月17日、フォーラム 246 で開催された支部忘年会に併せて行われたセミナーに29名が参加しました。

セミナーでは、赤城喜久代副支部長をとくに講師として招き、脊損ニュースに連載されている「飛んでもエンジョイ車いす」でも既にお馴染みになっていますように、旅行プランからホテルの手配まで独自で行うなど、旅先での様々な感動体験やエピソードなど、パワーポイントで画像を示しながら、車いすで行く海外旅行術について講演が行われ、セミナー参加者全員の共感を呼びました。

(2)横浜協会

①「横浜港クルージング & 萬珍樓でディナー」

10月13日に横浜協会の主催による、横浜港のクルージングと中華街の萬珍樓での豪華食事会の2本立てにした行事は、県内はもちろん埼玉県や東京などから36名が参加しました。

毎年恒例になっているこの行事は、気楽に参加できることや、また参加費もお手ごろな値段ということもあり、毎回多くの参加者があり、比較的人気の高い企画となっています。

②「自立支援法」について横浜市に説明を求める活動

5月23日に「障害者自立支援法」について、横浜市の健康福祉局障害福祉課を訪れ、制度の内容について詳しい説明を求めました。

横浜協会から新田輝一協会長、鈴木秀夫、鈴木滋美の3名が出席し、自立支援法が創設された経緯、応能負担と応益負担の違い、自己負担の問題や障害程度区分、また自立支援法と介護保険法の統合などについて詳しく説明を受けました。横浜協会では、会員の日常生活に直接関係があるこれらの内容を概要としてまとめ各協会会員に配布しました。

③「アーク横浜」の見学会の開催

2月22日、横浜市浦舟町にある浦舟総合福祉施設の12階にある高齢者ケア事業・子供事業・コミュニティーセンターの複合施設「ARC横浜」(アーク横浜)の施設見学会を行いました。参加者は、新田協会長はじめ4名でした。

(3) 県央協会

①「いちご狩り」バスツアーの開催

1月22日、西伊豆の久能山にある農園のいちご狩りをバスで行くツアーを行い、27名が参加しました。

バスは、厚木福祉センターから出発し、焼津の魚センターで豪華昼食をいただいた後、西伊豆久能山へ向いイチゴ狩りをするというコース。

日頃は自家用車を利用する毎日ですが、今回はリフトつき観光バスを利用してのイチゴ狩りで参加者一同久能山の甘い甘ーイに感激していました。

(4) 湘南協会

①「地引網とバーベキュー」の開催

4月30日、湘南協会の恒例行事となっている、茅ヶ崎の南湖海岸での「地引網とバーベキュー大会」が開催され、県内外から40名が参加しました。いつもながら海岸の波打ち際までの車いすのアクセスは、砂浜にパネルを敷く作業やバーベキューのお手伝いなど大勢のボランティアの協力によって成り立っています。参加者は、普段車いすではなかなか経験できない海辺での楽しみを思う存分味わっていました。

13、関東ブロック会議群馬県大会に出席

関東ブロック会議は、全脊連の関東地域9支部が集まり、関東各支部の情報交換と組織的な活動を行うことで、地域における脊髓損傷者の生活向上と福祉の増進を図ることなどを目的に、毎年開催されています。

昨年度は、11月18日・19日の日程で高崎市の「ウェルサンピア高崎」において第29回関東ブロック会議群馬県大会が開催され、自立支援法や障害者雇用問題、ピアサポート活動の推進、褥瘡治療など問題について活発な意見交換が行われた。

支部から、山崎支部長はじめ路川、赤城、妻屋が出席しました。

14、第5回全国総会山形県大会に出席

全脊連の全国総会は、6月17日(土)から19日(月)までの日程で山形市の「山形テルサ」開催され、全国から200名が参加しました。

この大会では、主に自立支援法について意見が交わされたほか、ピアサポート活動の推進などの18年度事業計画や予算案が採択されました。

また、障害者用駐車施設の問題に関するシンポジウムが開催されるなど大会は盛大に行われました。

支部から、山崎支部長、路川副支部長、横浜協会から鈴木秀夫、滋美さんの4名が出席しました。

15、その他の活動

1、5月8日、神奈川県の障害福祉グランドデザインについて説明会が行われ、路川副支部長が出席しました。

2、6月27日、9月6日、12月7日、神奈川県社会参加促進センター協議会総会が開催され、路川副支部長が出席しました。

3、10月12日、社会福祉協議会第2種・第3種正会員合同連絡会議が開催され、支部から山崎支部長が出席しました。

4、栃木県支部が主催する関東ブロックスポーツ交流会のグラウンドゴルフ大会が10月7日、那須野が原カントリークラブで開催され35名が参加しました。支部からは、城ノ上さん、明比さんなど4名が参加しました。

5、11月27日、「高齢者、障害者のためのバリアフリー新法」の説明会が館内ホールで開催され、山崎支部長が出席しました。

6、12月8日、神奈川県のセーフティーブロック(歩道に敷設するブロック)の車いすや歩行障害者対応の検証会が藤沢市で行われ、路川副支部長が参加し、検証を行いました。

7、2月2日、東京支部と全脊連本部合同の「新春の集い」が東京の京王プラザホテルで盛大に開催され、インターネット版「全国車いす宿泊ガイド」のお披露目が行われました。

支部から山崎支部長ら8名が出席しました。

8、3月6日、かながわ県民センターにおいて、平成18年度のかながわ福祉推進センター当事者懇談会が開催され、これまでの当事者をめぐる状況と今後の課題についての懇談会が開催されました。

支部から妻屋事務局長が出席しました。

9、支部では、神奈川県リハビリテーション支援センター(大橋正洋所長)の依頼を受けて「消臭らくらくパンツ」のモニターを引き受け、対象者7名に協力をいただきました。

以上